

「上関原子力発電所推進総決起大会」を開催 多くの町民の思いを強くアピール

5月16日、上関原電を推進する町内6団体（上関町商工会、上関町商工業協同組合、上関町建設業協同組合、漁業振興問題連絡協議会、上関原電推進委員会、上関町まちづくり連絡協議会）が協力し、「上関原子力発電所推進総決起大会」を室津の埋立地で開催しました。

上関原電の早期建設を願う町民や工事関係者など約1500人が集結した同大会では、浅海努実行委員長が、「妨害行為により半年も工事が中断し、我慢の限度を超えている。2月の町議選でも、（推進を求める）町民が7割を超え、圧倒的多数を占めており、このような推進の民意を広く示していくことが大切」とあいさつ。続いて、来賓3名にご挨拶をいただいた後、各推進団体の代表者がそれぞれの立場から、工事再開や原電推進に向けたアピールを行いました。次に、こうした町民の思いを込めた大会決議文（裏面参照を、ひととき大きな拍手で採択。最後に、参加者全員で「工事の妨害をやめろ！」など唱和し、町民の強い思いが一つになりました。

大会後は、代表者約50人が田ノ浦の海岸を訪れ、妨害行為を繰り返している反対派に対して、上関町民の大多数が原電立地を望んでいること、妨害行為により大勢の町民が迷惑していること、そして、妨害行為を止めて田ノ浦から立ち去るよう強く訴えました。

翌17日には、大会を主催した6団体の代表者12名が、山口県警察本部と第六管区海上保安部を訪れ、法律の趣旨に則って、厳正に対処していただくよう申し入れ。また、中国電力本社にて、工事の早期再開に向け毅然とした態度で臨むよう、山下隆社長へ直接要請しました。

妨害に屈せず、原電建設工事を早期に再開し、豊かなまちづくりにつなげていくためには、私たちの力を結集することが必要です。このたびの総決起大会を契機として、私たちの強い思いを広く社会に訴えていくわけではありませんか！

上関町まちづくり連絡協議会

「上関原子力発電所推進総決起大会」決議文

私たちは、我が町のまちづくりはもとより、資源小国日本のエネルギー安定供給や地球環境問題など、より高い見地に立ち、二十八年間の長きにわたりこの原発問題に真正面から取り組んで来ました。

その努力がようやく実を結んで、待ち望んでいた建設準備工事が始まり、いよいよ上関原発が現実のものとして私たちのすぐ目の前までやってきたのです。

しかしながら、一部の反対派町民に、町外からやってきた無責任な者たちが加わり、違法な妨害行為を繰り返した結果、工事が中断を余儀なくされる状況が、早や半年にわたり続いています。

彼らは、「自分たちの行動は抗議行動であり、妨害行為ではない」と平然と言いつ放ちます。しかし、町道を封鎖するなど、彼らの実力行使により工事ができず、現実には請負業者に被害が生じています。そればかりか、クレーンのワイヤーにかまるなどの無謀な行為により、事故につながりかねない危険な状況も発生しています。これらが妨害でないとするれば、一体何が妨害行為なのでしょう。

そのような彼らに対し、なぜ、中国電力は、もっと毅然とした対応をとらないのでしょうか。安全に工事を進めることが大切なのは分かるものの、いたずらに時間を費やしている現在の状況からは、工事を早期に再開したいという中電の熱意は伝わってきません。原発建設を待ち望む私たち多くの町民の声を中電はどれだけ真剣に受け止めているのでしょうか。

毅然とした対応を取らないという点では、警察や海上保安部も同様です。これらの警備当局は、「法律に則って対処する」と言いますが、これまでの対応を見る限り、国策に協力している私たちの権利よりも、むしろ、身勝手な主張を声高に繰り返す無法者の擁護に重きを置いているとしか思えません。警備当局が逃げ腰では、妨害者は、ますますつけあがる一方です。

現に、町外から来た妨害者らは、いつでも工事を阻止できるよう、田ノ浦の砂浜に土嚢を積み上げて大きな小屋を建て、我が物顔で浜を占領し、今も監視活動を続けています。いつから、上関の海や砂浜は彼らのものになったのでしょうか。彼らの行為は、目の前の工事を妨害しているだけでなく、私たちの働く場を奪い、生活の邪魔をし、豊かなまちづくりを願う多くの町民の夢をも踏みにじる卑劣な行為にほかならないのです。

私たちは、これ以上、彼らの傍若無人な行為を許すことはできません。

今こそ、私たちの力を結集して無法な妨害行為を止めさせ、建設準備工事を再開へと導くときです。

私たち一人ひとりの思いを強く社会に訴え、建設促進を図ることにより、原発立地を契機としたまちづくりを強力に推進していくことをここに決議します。

平成二十二年五月十六日

上関原子力発電所推進総決起大会実行委員会